

# 憲法しんぶん 速報版

発行 憲法改悪阻止各界連絡会議（憲法会議）

Eメール mail@kenpoukaigi.gr.jp  
ホームページ http://www.kenpoukaigi.gr.jp

TEL03-3261-9007  
FAX03-3261-5453

2015年8月28日（金）

第544号 本号5頁

## 「8・30 大行動」はいよいよ明後日！

**国会・日比谷・霞ヶ関 10万人！ 全国各地で「100万人」を必ず！！  
「今日、私たちが、戦争しない未来をつくる。」**

動として、多くの注目を浴びながらいよいよ明後日に迫りました。

連絡先には問合せの電話が殺到しています。国会・日比谷・霞ヶ関には、これまで行動に参加したことの無い人たちも続々と参加を表明しています。「家族で相談したら、最初は『ウザッ』といていた中学生の娘も参加することになった」、「このために通販で折りたたみ椅子を買って参加する」（いずれも埼玉在住者）などの電話もあります。

### 「下車駅は霞ヶ関、行き先は日比谷・霞ヶ関の宣伝カーステージ」を呼びかけあおう

たいへんな人ごみが予想されます。特に国会周辺では身動きできなくなることも想定されます。

国会周辺、特に正門前のステージ近辺には集中せず、下車駅は最初から霞ヶ関、桜田門、虎ノ門などとし、配置している宣伝カーのステージで参加しようと呼びかけあいましょう。

### 地元千代田は、「日比谷公園霞門の集合」を呼びかけ

地元の『戦争法案』廃案求める総がかり運動千代田実行委員会」は、10万人国会大行動への参加を呼びかける中で、「千代田は国会周辺を全国の参加者優先に考え、日比谷公園霞門に13時から『千代田』の旗を掲げ、だれでも短時間でも参加を、と促しています。

## 全国 100 万人大行動は草の根、網の目で

「全国 100 万人大行動」を成功させる最大の保障は草の根の運動、網の目の行動、一人からできる活動です。これらの無数の活動の総和で 100 万人大行動となります。

### 行動は 1 人から、いまからでも計画。みんなが歴史に参加を

大きな会場、多人数の取り組みは無理でも、家庭で、近所で何人かの行動、団体や事業所・会社などの規模ややり方の工夫で 100 万人大行動の一角を担い、参加することができます。

### 14 時、15 時、15 時 55 分のいっせいコールで全国はつながる

下記のコールが 3 回、国会正門前のメインステージで叫べられます。14 時、15 時、15 時 55 分です。この時刻に声をあげあえばいいのです。

#### 国会—全国共通コール

戦争法案絶対反対！／戦争法案今すぐ廃案！／今すぐ廃案！／戦争法案成立反対！／国際戦争支援法反対！／戦争法制整備法反対！／戦争する国絶対反対！／戦争反対！／9 条守れ！／憲法破壊絶対反対！／安倍政権の暴走止めよう！／みんなの力で暴走止めよう！／安倍政権は今すぐ退陣！／強行採決絶対反対！

# 運動と論戦で法案ボロボロ、政権ガタガタ 追い詰めて、追い詰めて、追い詰めている

## **警戒！**破れかぶれの衆院再議決強行

かつてない運動のひろがり、さまざまな論点と暴露で迫る国会論戦で、違憲性、危険性があきらかになり、法案はいまやボロボロ、政権は答弁不能、ガタガタになっています。

### 世論と運動、論戦が参院採決強行をしばりつけている

28日（金）の特別委員会も維新の党の「対案」の趣旨説明がおこなわれただけで、13時から10分間で散会しました。この委員会にさきだつ理事懇談会でも与党は、来週の定例日の審議日程が提案できませんでした。31日（月）の理事懇協議に先送りされました。定例日の9月1日（火）も通常の審議が困難と思われます。また参考人質疑も未実施のままですが、来週中に開催されるかどうかは不確定となっています。

鴻池特別委員会委員長の対応も報道のように投げやりです。与党側の当初のもくろみであった衆議院波の審議時間の確保を、衆院強行採決・通過、参院送付から60日にあたる9月14日前におこなうことが困難な見通しです。結局、参議院での採決強行がされるかどうか極めて微妙になっています。世論と運動、論戦が追い詰めている結果です。

### 与党に残された道は国民無視、議会制民主主義破壊の衆院再議決

こうなれば、中国訪問も中止し、他の法案の審議は先送りするなど戦争法案成立をなんとしてもという執念に燃える安倍政権・与党は、衆院での再議決をおこなってでも、というやり方をとらざるをえなくなります。数を頼んで、国民主権、議会制民主主義を真っ向から否定する再議決強行など断じて許せません。

再議決は、60日を過ぎた段階で、衆議院の「みなし否決」を経て、再議決にかけるというものです。15日以降数日が極めて緊迫します。警戒が必要です。

## 8・30 大行動の圧倒的成功で、「安倍政権打倒、徹底審議、戦争法案は直ちに廃案！」を

それだけに、「戦争法案廃案！安倍政権退陣！8・30国会10万人・全国100万人大行動」の成功は、掛け値なしの重要な意義もち、安倍政権に決定的な打撃をもたらします。

国会周辺エリアと日比谷・霞ヶ関エリアに10万人、全国各地・草の根網の目で100万人が決起・集結、コールをあげましょう。

### 9月の運動の日程

- 9月1日（火） 全国いっせい街頭宣伝（総がかり行動実行委員会）
- 3日（木） 第16回毎週木曜連続国会前集会 18時30分から19時30分 衆院第二議員会館前（総がかり行動実行委員会）
- 8日（火） 全国いっせい街頭宣伝 東京＝新宿駅大集会・街頭宣伝 18時30分～ 新宿駅西口（※分散しておこなわず大結集します）
- 9日（水） 日比谷大集会・国会請願デモ 日比谷野外音楽堂（総がかり行動実行委員会）
- 10日（木） 署名提出院内集会・議員要請行動 14時～16時30分（憲法共同センター）  
第17回毎週木曜連続国会前集会 18時30分～20時 国会正門前
- 11日（金） 戦争法案廃案！国会正門前大集会 18時30分～ 国会正門前
- 12日（土） 止めよう！辺野古埋め立て9・12国会包囲行動 14時～ 国会周辺（実行委員会＝総がかり行動実行委員会協力）

## 参議院特別委員会（8月21日午後）傍聴記

この日の参議院特別委員会は別荘でゴルフを楽しんで夏休みを取っていた安倍首相も出席し、テレビも入った集中審議でした。

### 自衛官が守る武器は、地域は限定されず、空母から、ステルス戦闘機までも

民主党の蓮舫議員が、安保法制に反対してデモをしている大学生を利己主義と批判した自民党の武藤貴也議員が自民党を離党した問題で、自民党総裁でもある安倍首相に、週刊誌報道などの事実を確認したのかと質問。安倍首相は質問には答えず、党の問題は幹事長に任せていると答弁。蓮舫氏は、自民党総裁として、内閣総理大臣として事実関係を調査し、議員辞職勧告を、首相補佐官の磯崎氏に対してもともども行うべきだと求めました。

安保法制については、米軍等の部隊等に対して武器防護を可能にする自衛隊法 95 条の改定で、自衛隊員がアメリカ軍やその他の軍隊の武器を防護することになる問題を迫りました。法文上は、①その活動地域は限定されていないこと、②自衛隊が守る外国軍の武器は、米軍の空母からステルス戦闘機などまで含まれることが明確になりました。しかもこの条文では「自衛隊員」が主語となっているので、現場の判断で武器の使用も可能となり、武力行使との一体化も起きることになると質問しましたが、中谷氏は、「戦闘行為でないと判断した場合に防護できる」などとの答弁に終始しました。

### 「そんなことどうでもいいでしょう」と首相が自席からヤジ

そのやり時の中で、またまた飛び出した安倍首相の自席からのヤジ。しかも「そんなことどうでもいいでしょう」という内容に会場は騒然としました。さすがに鴻池委員長が注意しました。さらに安倍首相は、「95 条は現行法と同じ」だと答弁。現行法は憲法の厳重な縛りのもとでのもので、安保法制は集団的自衛権の行使を容認するという全く次元が違ってくるので問題にしているのに見当違いの答弁ばかりでした。蓮舫議員は「切れ目がないのではなく、歯止めがない」として廃案を求めました。

### 自衛隊の暴走だ！！

日本共産党の小池議員は、統合幕僚監部の内部資料をもとに安倍首相に質問。首相は「具体化していくべき検討課題を整理すべく、分析や研究を行うのは当然だ」「問題あるとは全く考えていない」と強弁しました。小池氏は「一省庁の問題ではなく、自衛隊という実力組織だ。軍隊を独走させてはいけないというのは戦前の教訓だ」と反論。「内容は国会で全く説明していないものばかりだ。国民と国会を愚弄（ぐろう）するものだ」と批判しました。

首相は「防衛大臣の指示のもと、その範囲内で行われたものだ」と述べ、文民統制は貫徹していると発言。小池氏は、中谷元・防衛相が5月に作成された文書の内容を8月まで把握していなかった事実をあげ、「自衛隊の暴走以外の何物でもない」と強調しました。

### 自衛隊を「軍」として扱うなど、憲法はないがしろに

小池氏は「同盟調整メカニズム」内に、「軍軍間の調整所」の設置を記している問題について、憲法にも抵触することだとして見解を求めましたが、安倍首相は「便宜的な表現であり、問題あるとは考えていない」と答え、自衛隊を「軍」と記すことを当然視しました。

小池氏は「軍を持たないという憲法を持つ国の首相が、『軍』と書くことを、便宜的な問題でかまわないということが許されるのか」と追及。首相が3月にも自衛隊を「我が軍」と発言したことにふれ、「首相は憲法をないがしろにし、自衛隊の中でも、憲法も国民も無視した議論が行われていることを示

すことに他ならない」と批判しました。

## 平時から米軍の指揮下に入って自衛隊が活動することに

小池氏は、「軍軍間の『調整』などというが、圧倒的な情報量を持っているのは米軍」であり、防衛省元幹部の柳沢協二氏が衆院の参考人質疑で「情報を持って主導権を持っている方が、主従関係から言えば主に決まっている」と発言していることをあげ、「自衛隊が平時から共同司令部の下で、米軍の指揮下に入ることになる」とただしました。中谷防衛相は「自衛隊の活動はわが国の国内法令に従って行われるので、自衛隊が米軍の指揮下に入ることは考えられない」と答弁。

小池氏は、憲法解釈を変更して立憲主義を壊そうとしながら、米軍とともに行う軍事行動では国内法に従うといっても説明にならないと批判しました。

さらに内部文書は、新たな日米軍事協力の指針（ガイドライン）に基づいて、平時からの米軍等防護（アセット防護）を戦争法案で実施するため、「ROE（※）の策定等」として「ROE等の整備を行うことが必要」とまで記しているが、衆院の審議（6月19日）で日本共産党・宮本徹議員の、「自衛隊法95条への米軍等の武器等防護規定の新設を受けてROEを改定するのか」との再三の質問に対して中谷防衛大臣は、「お答えは控える」などと説明を拒否してきたことなどをもとに、「一度も国会に説明されていない」と迫りました。中谷氏は「当然に有しうる課題の認識を示したものだ」などと強弁。「私が指示をした範囲内だ」と文民統制上も問題がないと居直りました。

小池氏は、「統幕内部文書から見えるのは、まさに自衛隊を米軍と肩を並べて海外で戦争する集団に変えようとするものだ」と強調。「こんな仕組みを作れば自衛隊は米軍の指揮下に入って、自衛隊が米軍のもとで地球の裏側まで行って戦争をすることになる。まさに戦争法案だということが明確になった。廃案以外ない」として統合幕僚長の証人喚問を要求しました。

（※ROE＝交戦規定）

## なにかどんどん広がってしまう可能性を多くの人は不安に思う

維新の党の清水貴之議員は、南シナ海でも機雷の除去に関して、衆議院では「う回路があるので想定はしない」といい、参議院の審議では「三要件に入れば対応する」と答弁が変わっている問題を安倍首相に質問。安倍首相は「一貫している」などと答えています。

また清水氏は、政府案には入っていない国民保護法の適用について質問。中谷防衛大臣は、「ホルムズ海峡に機雷を封鎖した場合の存立事態やまだ武力攻撃事態等に該当しない場合は国民保護法を適用する必要はないということで新たな要件として定める必要はない。武力攻撃事態等の認定について政府として判断して国民保護法を適用することで十分対応できる」などと、国民保護法の適用は政府が判断することだと答弁しています。清水氏は武器弾薬の提供、輸送について、核兵器、クラスター爆弾などの禁止規定を設けるべきだと質問。中谷氏は「大量破壊兵器などの輸送は行わないことは当然であり、現実に考えられないので、そんなことまで全て法律に規定する必要はない」と強弁しました。清水氏は、「何かどんどん広がっていつてしまう可能性を感じる。この不安を多くの方々が持っている。これを改めて指摘する」と述べました。

## 女性の不安の声は「わからない」からではなく、理解が深まっているからだ

この日は、自民党が猪口邦子議員、公明党が佐々木さやか議員と女性議員を立てての質疑を行いました。猪口氏は、「平和安全法制は日本の平和を守るためのもの、日本への侵略を未然に防止し、他国に日本に対する紛争を思いとどまらせるもの」との立場から、安保改定国会での岸総理の言葉まで引用して質問というよりは持論を展開しました。

また公明党の佐々木氏は、「一つの傾向として男性よりも女性の方の理解が深まっていない。女性と話すとき安保法制はよくわからない、だから不安の声が多い。内閣府の調査でも自衛隊・防衛問題について関心がないと答えたのは49.5%。よくわからないから不安、賛成できない。わかりやす

い説明を」と述べました。

女性の中では、理解が深まっていないのではなく、安倍首相の説明などを聞いて判断しているので支持も低いという点を公明党は客観的に見なければなりません。

とにかく自席のヤジは言いたい放題、答弁にはまともに答えない、法文は関係なく、政策問題や個人の思いで片付けるという国会軽視の態度があからさまでした。

戦争法案は廃案しかないことを改めて強く感じた傍聴でした。 (T)